



夢

かきばらの風

手と心でつながる わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～

第45号 令和3年4月12日

松江ろう学校 校長だより 福島朗博

5指を上に向けて折り曲げた右手をこめかみから揺らせて上げる

令和3年度がスタートしました

～入学式の式辞より「きこえない自分に自己有用感と自己肯定感もって」～

春爛漫、令和3年の新年度が始まりました。本年度もお子さまの成長のために、教職員一同、協同しあって精一杯務めてまいります。コロナ禍にあり、収束もまだ見通せない状況です。引き続き、保護者の皆様とともにご協力をいただきながら、安全安心な学校生活となるよう心がけていきたいと思っております。校長だよりも5年目を迎えました。山並み越えて吹き渡る柿原池のさわやかな風のように、子どもたちの様子を生き生きとお伝えしていけたらと思っています。合わせてどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度は3名の新入生を迎え、幼稚部9名、小学部9名、中学部7名、高等部6名、合わせて全校31名で新年度をスタートしました。入学式では、私から子どもたちに、この学校で「きこえない自分」に対する自己有用感と自己肯定感をもって成長できることを願って、夢に向かってチャレンジし社会で活躍している先輩を取り上げてお話をしました。以下、紹介します。

■始業式では・・・心に3つの🍊を植えて頑張りましょう

今年度の3つの🍊は『げんき』『やるき』『ゆうき』です。

『げんき』は「明るく元気にあいさつしましょう」。「やるき」は「目標をもち、やる気をもって挑戦しましょう」。「ゆうき」は「勇気をもって、きこえない自分のことを話したり、困っている人に手をさしのべたり、地域の方やいろいろな人とつながったりしましょう」。先生方はみなさんのやる気や頑張っているところをほめて応援します。自分らしく成長できる一年にしてください。



■入学式では・・・母校卒業のろう先輩「会社独立の夢から生徒の自立支援の夢へ」

花々は美しく咲き誇り、みなさんの門出を祝福するように、春の香りが満ちあふれています。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんの入学を、先生やお友だちはとても心待ちにしていました。みなさんを喜んでお迎えします。

松江ろう学校は、手と心がつながってわかり合える喜びと笑顔のあふれる学校です。幼稚部から高等部までみんながお互いになかよくしあって、また地域の方々ともふれあってさらに魅力ある学校になっていくことを願っています。

さて、みなさんには、いま胸に抱いている夢がありますか。またそれはどんな夢ですか。

みなさんの先輩になる松江ろう学校のOBで、40年前の本校の卒業式で「独立できるように、真面目に仕事をする。」と自分の夢を高らかに宣言した方がいます。廣戸 勉さんです。

就職した看板店や工芸店で、文字を美しく書くためのレタリング技術を独学で身につけながら勤め続けました。話が通じないと仕事もできないように受け止められて、悔しい思いを多々経験してきましたが、作品の出来ばえを見てもらって少しずつ認められるようになりました。現場に一人で



写真は 就職してくにびき国体杯スターコンクールに出展したときの廣戸勉さん

手話イラストは「わたしたちの手話学習辞典」

(全日本ろうあ連盟出版局) より引用

出かけていって、たくさんの文字書きや看板取り付けなどを仕上げて、自信を深めるとともに、社内外の信頼を確かなものにしていきました。

そうして機が熟した6年目のこと、いよいよ独立の夢を叶えようと仕事仲間と気の合う人たちに呼びかけ、4人で会社を立ち上げる計画を立てました。

その準備にとりかかっていた矢先の秋に、恩師から「松江ろう学校で仕事をしないか。」と話がきました。会社を立ち上げる夢を捨てきれずに半年間、非常に悩み抜いた末、母校に戻って新たな仕事につく決心をしました。

そのときの心境を、廣戸さんはこのように語っています。「独立という夢は変わったかもしれないけど、産業工芸科での「ものづくり」の仕事の夢は同じだったので、学校に決めました。新たな夢として、同じろう者としての立場や経験を活かし、生徒には立派な社会人として巣立つよう、もっている力や得意なものを自信をもってアピールし、多くの人たちともかかわってほしいと願いました。」。

職場の方や、独立して一緒に仕事をする予定だった仲間も、母校での活躍を応援して背中を押してくれました。

廣戸先生のその後の30年をこえる教員生活は、みなさんもお存じのように、ものづくりの醍醐味はもちろん、手話の大切さや社会に出て生きるためのふるまい方など、自立に向けて実にたくさんの大切なことを教えてくださっています。廣戸先生が母校に帰ってこられて、本当によかったなと心から思います。

みなさんも、ぜひ夢をもって、チャレンジしてください。障がいがあっても夢をあきらめないでください。校長先生と同じように、きこえない私をうんと好きになってください。そして、『やる気』『勇気』があれば、夢はかないます。先生たちもみなさんの『やる気』をしっかり受けとめて、夢の実現に向けてサポートしていきます。なんでも相談してください。

保護者のみなさま、本日はお子さまのご入学 誠におめでとうございませう。教職員一同、聴覚障がい教育のさらなる専門性の向上に努めながら、お子さまの教育を行ってまいります。そこで、保護者のみなさまにもお願いがございませう。お子さまが「きこえない私が好き」と思えるように、「そのままのあなたが好きだよ」という愛情を手話や言葉でいっぱい伝えてあげていただきたいと思ひます。一緒に手を取り合っ、共にお子さまの成長を支えていませう。

卒業生だより 「思いもしなかつた転職・教師への道」 廣戸 勉

(前略) 私は6年間に経験したことを大切にしています。学校を卒業してすぐ先生になっていたら、全くあの世界を知りませうでした。しかし、自分は知らないこと、まちがっていることがまだまだあると思ひます。以前勤めていたときのように、いろいろなことを知り、成長したいです。些細なことでも結構です。心からご指導をお願いします。そうして知ったことを生徒たちに教えてあげたいと思ひます。できるだけたくさん勉強をして、生徒たちに好かれるような教師を目指して頑張りたひと思ひます。

私は今、毎日楽しく一生懸命に生きています。

文集「ちどり No.75」(昭和61年度松江ろう学校PTA発行)

この春休みに図書室で、以前PTAで発行されていた文集「ちどり」に収められていた廣戸先生の原稿を発見し、本人も驚いて懐かしんでいました。当時、教職2年目だった私は、同い年ながら社会人としては先輩である彼の生徒への語りに、一緒になって感銘を受けたものでした。一例を紹介しませう。(メール機能付き携帯のない時代です。街には至る所に公衆電話が設置されていました。)
「親しい他人であっても自分の代わりに公衆電話をかけてもらうときは、十円玉を幾らか渡して願ひすること。」十円だからたいした額でないと思っは人として失礼だよと、相手に誠意をもって接することの大切さを説く彼の話は、生徒を立派な社会人に育てたい思ひに溢れていました。廣戸先生はそうやってこの30年間に150名以上の卒業生を送り出してきたのです。まさに松ろうの誇りです。

このおたより「かきばらの風」のバックナンバーは松江ろう学校ホームページでご覧になれます。